

日本航空(JAL)との連携による高品質な養成課程でエアラインパイロットをめざす

# エアラインパイロット 指定校推薦コース

**1年次** 11-5月  
海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、FAA自家用ライセンス取得のための学科試験対策や英語学習を各自で実施（訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります）

**2年次** 6-8月  
先進工学部  
ハイブリッド留学<sup>®</sup>

**3年次**

**4年次**

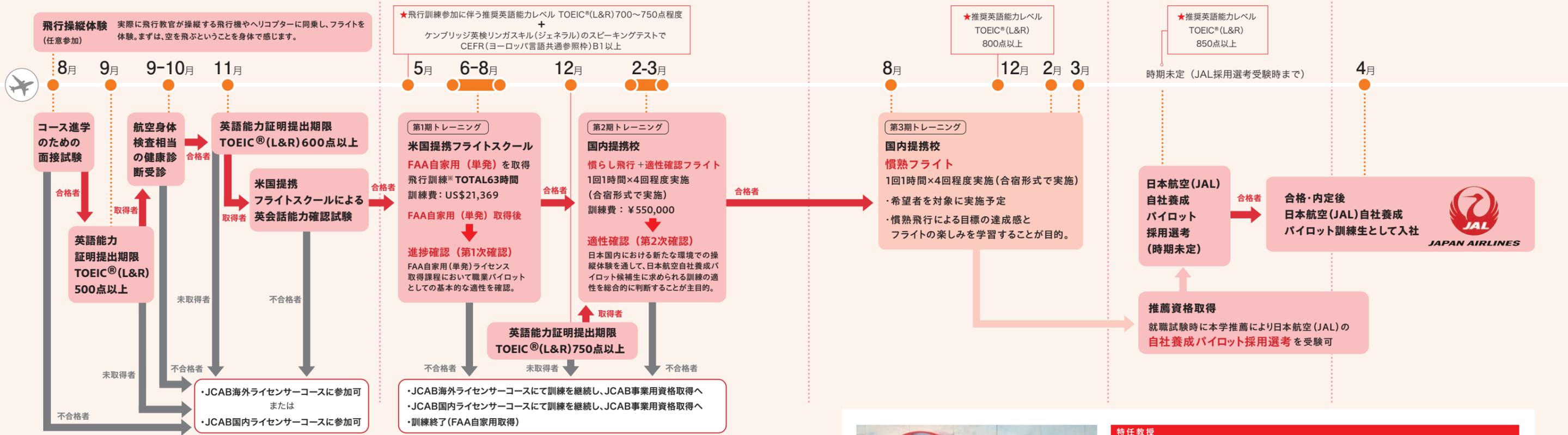
3月  
学士号取得

**卒業後**

## 本コース申込に際しての重要注意事項（必要条件）

- 【必須要件】
- 1年次前期（予定）に本学が実施するコース進学のための面接試験に合格すること。 ●1年次9月までにTOEIC® Listening & Reading Test 500点以上を取得すること（証明書提出）。
  - 1年次10月までに本学の定める付加的な要件を含む航空身体検査相当の健康診断に合格すること。 ●1年次11月までにTOEIC® Listening & Reading Test 600点以上を取得すること（証明書提出）。
  - 1年次12月に米国提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格すること。 ●2年次12月までにTOEIC® Listening & Reading Test 750点以上を取得すること（証明書提出）。
  - 本学が指定する期日までに本学の提携する米国フライトスクールにて、FAA自家用（単発）ライセンスを取得のうえ、進捗確認（第1次確認）および適性確認（第2次確認）に合格していること。 ●本学を卒業見込みの者。
- 【推奨要件】
- 資格取得のための飛行訓練および各種試験（筆記・口述・実技・無線等）はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。
  - 2年次5月までにTOEIC® Listening & Reading Test 700～750点程度を取得すること。
  - 2年次5月までにケンブリッジ英語検定リンガスキル（ジェネラル）のスピーキングテストでCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）レベルB1以上を取得すること。
  - 3年次12月までにTOEIC® Listening & Reading Test 800点以上を取得すること。
  - 4年次の日本航空（JAL）が実施する自社養成パイロット採用選考受験時までに、TOEIC® Listening & Reading Test 850点以上を取得すること（証明書提出）。
- 訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。
- 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢、提携エアライン等の事情により実施できない場合があります。\*
- 渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。\*
- 渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用（総額）や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う十分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要で、
- 渡航（米国内での操縦訓練）に際し、FAA Medical Certificates (3rd class以上)の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。\*
- 渡航（米国内での操縦訓練）に際し、Flight Training Security Program (FTSP)にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。\*
- 各トレーニングの課程において、進捗確認を行います。進捗状況によっては、コースアウトとなる場合があります（その場合、他の訓練コースに移行して資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります）。
- 所定のトレーニング期間内に指定されたライセンスの取得ができない場合、コースアウトとなる場合があります（その場合、他の訓練コースに移行して資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります）。
- 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2023年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合は、本コースは継続できません。
- 推薦資格取得者であっても日本航空（JAL）が実施する自社養成パイロット採用選考の合格・内定を保証するものではありません。
- ※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります。

取得できる免許・資格  ■FAA自家用資格



※ 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、資格取得の課程で学科教育があります。

### 本コースの特徴

※詳細は「本コース申込および推薦資格取得に際しての重要注意事項（必要条件）」をご確認ください。

- POINT 1** 操縦訓練開始前に、エアラインの採用を見据えた基準で航空身体検査相当の健康診断を受診するため将来の設計図が描きやすい。
- POINT 2** 米国 (FAA) の自家用操縦士ライセンスを取得し適性確認フライト (適性確認) に合格すると本学推薦により日本航空 (JAL) の自社養成パイロット採用選考に挑戦できる。
- POINT 3** 圧倒的に低く抑えた訓練費で本コースをチャレンジできる!



### 特任教授

**山本 潤 特任教授**

1988年日本航空株式会社入社。  
自社養成パイロット訓練生として技能証明取得訓練後、1992年ボーイング747-400型セカンドオフィサー（航空機関士）昇格、1994年ボーイング747型副操縦士昇格。副操縦士業務に約9年間従事した後、2002年ボーイング747-400型機長に昇格。副操縦士昇格訓練教官業務を経て、2009年操縦教育証明取得。訓練審査企画部門にて、日本航空の新たな自社養成訓練方式の企画、設計ならびに、現在実施されている副操縦士昇格訓練全般の整備・法制化等に携わる。2017年～2021年フェニックス訓練室長として自社養成パイロット訓練生への訓練を担当、帰国後、運航企画部リソース戦略グループにて調査役機長として従事。

**Message**

エアラインパイロットを目指す皆さん、  
本学の優れた教育、訓練環境の下で  
将来の夢を実現しましょう！

エアラインパイロットの能力は、単にライセンスを取得するための知識、技量のみならず、飛行中に起こりうるさまざまな脅威 (Threat) に対して、タイムリーに対抗策 (Countermeasure) を講じるための「コミュニケーション能力」が必要です。このコミュニケーション能力は、普段の生活の中のちょっとした意識の変化から身に付けることが可能です。本学の優れた教育環境の下で、飛行機を飛ばすことの楽しさを一緒に学びましょう。本学プログラムを卒業される皆さんと、将来世界中の空でお会いできるのを心より楽しみにしています。